

## 乳がん

乳がんは、乳房の中の乳腺にできる女性特有のガンです。

30歳代後半から増え始め、40歳代後半から50歳代前半に最も多いと言われています。



自覚症状としては、胸にしこりやエクボのようなくぼみを感じたり、血の混じった分泌液が出る、乳頭や乳輪部分に湿疹やただれが出来る、乳房が赤くなる、熱を持ってくる、皮膚が腫れるなど、様々です。

気になることがあれば、直ちに検診を受けるようにしましょう。

(LL健康ニュース No.157より抜粋)

## 子宮頸(けい)がん

子宮の入り口にできるガンを子宮頸がんと言います。20歳代後半から40歳前後まで多く、70歳前後で再び多くなる傾向があります。

自覚症状としては、月経時以外の出血、性交渉の際の出血、普段と違うおりものが増える、生理の量が増えたり長引く、下腹部痛、腰痛などが知られています。

子宮頸がんは、「ヒトパピローマウイルス」というウイルスの感染が原因です。このウイルスの予防ワクチンの接種をしておくことが、必要になります。

子宮頸がん予防ワクチンは、半年間で3回接種するワクチンです。特に中学生や高校生相当の年齢の女性は、予めワクチン接種をしておくことよいのではないのでしょうか。

## 子宮体(たい)がん

子宮の奥にある子宮内膜にできるがんのことを子宮体ガンと言います。

子宮体がんの原因は、女性ホルモンのバランスの乱れが大きく関係しているとされています。したがって、閉経前後の50~60歳代の女性に多く見られます。

自覚症状としては、月経時以外の出血、閉経後の出血、おりものに少しだけ血が混ざった出血、排尿痛、排尿困難、腹痛などです。

子宮頸がんに比べ、体ガンはあまり知られていないようですが、体ガンの患者数は年々増加し、子宮頸がんよりも多くなっています。



不正出血や月経不順、妊娠出産の経験が少ない、肥満、卵胞ホルモン薬を服用している女性などは、子宮内膜が増殖しやすくなり、子宮体がんができやすいとも言われています。

## 卵巣がん



子宮の両脇にある卵巣にできるガンを卵巣がんと言います。

40歳頃から増え始め、50~60歳代が最も多くなり、その後ほぼ横ばいになり、80歳以上でまた増加します。

腹部の膨満感や、腹部の周囲サイズが大きくなる、骨盤や腹部に痛みがある、食事が進まない、またはすぐに満腹感を覚える、トイレが近かったり、もしくは排尿困難になるなど症状が月に高頻度(10回以上)起こるようであれば、卵巣がんのリスクが高いとされています。下腹部のしこりや圧迫感、頻尿や不正出血が気になられる方は、早めに検診を受けるようにしましょう。